

子ども心理支援班

2024年 後期総会

班員紹介

井上美波	(医学科3年 班長)	迫田光	(医学科3年)
上間直樹	(医学科6年)	長間ひかり	(医学科3年)
圓城菜子	(医学科5年)	湯田諒彦	(医学科3年)
藤田浩輔	(医学科4年)	松竹諒也	(医学科1年)
浦川颯太	(医学科3年)	村田龍平	(医学科1年)

目次

1. 概要

2. 活動内容

①思春期健診

②同志社メンタルヘルス予防教育プログラム

③埼玉県教育委員会

④なごや子ども応援委員会

⑤塚田先生インタビュー

3. まとめ

目次

1. 概要

2. 活動内容

①思春期健診

②同志社メンタルヘルス予防教育プログラム

③埼玉県教育委員会

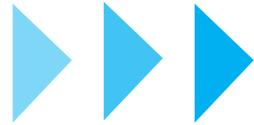
④なごや子ども応援委員会

⑤塚田先生インタビュー

3. まとめ

1.概要

立班動機

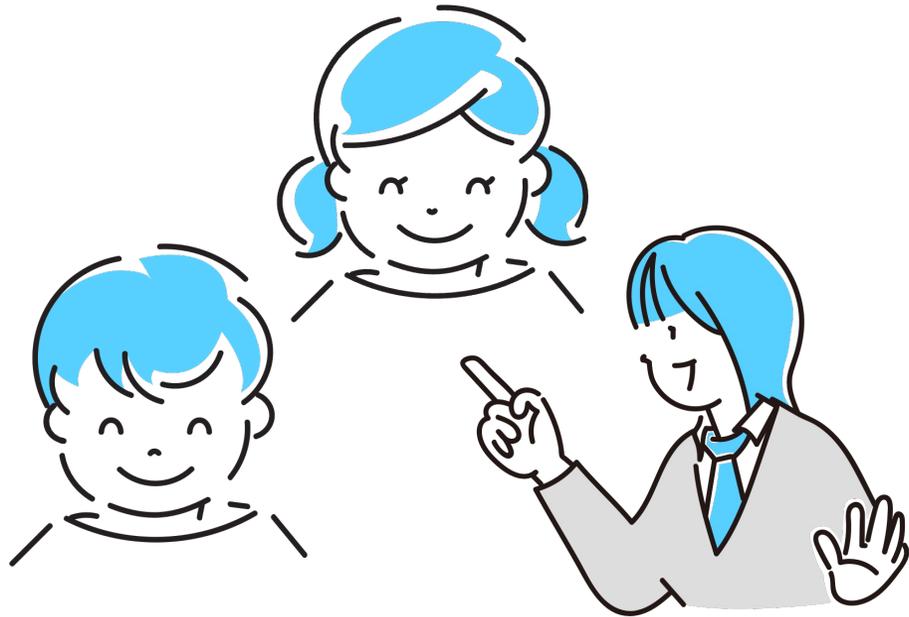


虐待、愛着障害、精神疾患
いじめ、知的・発達障害

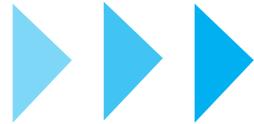
自殺・自尊心の低下
非行・生きづらさ

1.概要

立班動機



適切なケア



個人の抱える辛さや
悲しい結果を減らせる

1.概要

立班動機



早期発見&支援に繋げる
ための方法を考えたい！

適切なケア

個人の抱える辛さや
悲しい結果を減らせる

1.概要

前期総会のまとめ

子どもの心理支援のために学校や医療機関にできる取り組みとして
学校での授業・スクリーニングに注目し、
それを可能にするには何を解決すべきかを調べる

○学校での授業

埼玉県教育委員会

名古屋市こころの授業



○スクリーニング

名古屋市の全員面談

思春期健診



※スクリーニングとは：疾病や異常を早期に発見するために行う検査や評価のこと

1.概要

これまでの活動



思春期健診の調査

- ・土生川千珠先生
- ・阪下和美先生
- ・永光信一郎先生



日本不安症学会 日本認知療法・ 認知行動療法学会

- ・埼玉県教育委員会
- ・同志社大学メンタルヘルス
予防教育プログラム



インタビュー

- ・なごや子ども応援委員会
- ・塚田先生（精神科医）

1.概要

発表内容

効果

① 思春期健診

スクリーニング

効果

② 同志社大学メンタルヘルス予防教育プログラム

学校での授業

実践例

③ 埼玉県教育委員会

学校での授業

スクリーニング

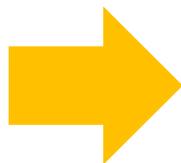
実践例

④ なごや子ども応援委員会

学校での授業

スクリーニング

⑤ 塚田先生（精神科医）インタビュー



まとめ：支援モデルの提案

目次

1. 概要

2. 活動内容

①思春期健診

②同志社メンタルヘルス予防教育プログラム

③埼玉県教育委員会

④なごや子ども応援委員会

⑤塚田先生インタビュー

3. まとめ

論文・研究報告書の調査

- ・ ^{はぶかわ}土生川千珠先生
「**思春期のこころの学校健診**」を2018年から実施
- ・ 阪下和美先生
地方自治体との**思春期健診**の実装
- ・ 永光信一郎先生
思春期健診の社会実装化についての研究

論文・研究報告書の調査

- ^{はぶかわ}土生川千珠先生
「**思春期のこころの学校健診**」を2018年から実施
- 阪下和美先生
地方自治体との思春期健診の実装
- 永光信一郎先生
思春期健診の社会実装化についての研究

論文・研究報告書の調査

著者：土生川千珠

- ・ 不登校予防のためのこころの学校健診 思春期のこころの予防的支援システム2023
- ・ Early intervention for psychosomatic symptoms of adolescents in school checkup 2022
- ・ 心身症予防のための思春期の学校健診2022
- ・ 不登校予防のための思春期の学校健診2021
- ・ Utility of the QTA30 in a school medical checkup for adolescent students 2020
- ・ Late bedtime reflects QTA30 anxiety symptoms in adolescents in a school checkup 2020
- ・ 思春期の学校健診への取り組み2019

思春期のこころの学校健診

[目的]

不登校や心身症の予防のための学校健診システムの構築

[対象]

和歌山県紀南地域の小学5年生～中学3年生

(2018～2020年：計4000人、2021年：3914人、2022年：3625人)

[実施期間]

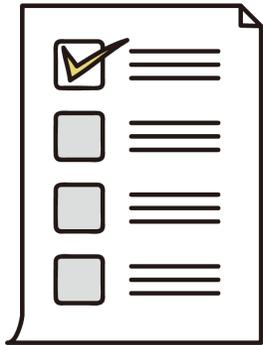
2018年度～現在 毎年実施

2-①思春期健診

スクリーニング

思春期のこころの学校健診

[健診の流れ (2018~2020年度)]



高リスク (スコア37以上) の生徒



受診

QTA30 (質問票)

生活習慣のアンケート

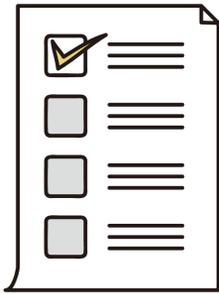
南和歌山医療センター
学校健診外来

2-①思春期健診

スクリーニング

思春期のこころの学校健診

[健診の流れ (2021年度～)]



高リスクの生徒



受診

改善が見られない生徒



紹介



QTA30 (質問票)

生活習慣のアンケート

近隣の小児科

南和歌山医療センター
学校健診外来

2-①思春期健診

QTA30

スクリーニング

(Questionnaire for Triage and Assessment with 30 items)

夜はよくねむれない。

朝起きにくく、午前中は体調が悪い。

たちくらみや、めまいがする。

お腹が痛くなる。

頭が痛くなる。

いつもつかれている。

食欲がない。

げりをする。

気分が悪くなる。

ひとりぼっちだと感じる。

学校に行きたくない。

だれとも話したくない。

気分がおちこんでいる。

生きていてもしかたがないと思う。

しあわせである。

身体症状
(9項目)

抑うつ症状
(5項目)

学校の先生のが好きだ。

しゅみを楽しんでいる。

生活はとてもおもしろい。

将来の夢について話すことができる。

自分に満足している。

おちこんだときには、自分自身をはげますようにする。

むずかしい問題にちょうせんするのが好きだ。

いらいらする。

勉強や友だちのことが気になる。

家でストレスを感じる。

学校でストレスを感じる。

カッとなりやすい。

過去の失敗を思い出す。

家族は、わたしの話をよく聞いてくれる。

家族は、わたしの努力をわかってくれる。

自己効力感
(8項目)

不安症状
(6項目)

家族機能
(2項目)

全30項目

はい(2点)

ときどき(1点)

いいえ(0点)

2-①思春期健診

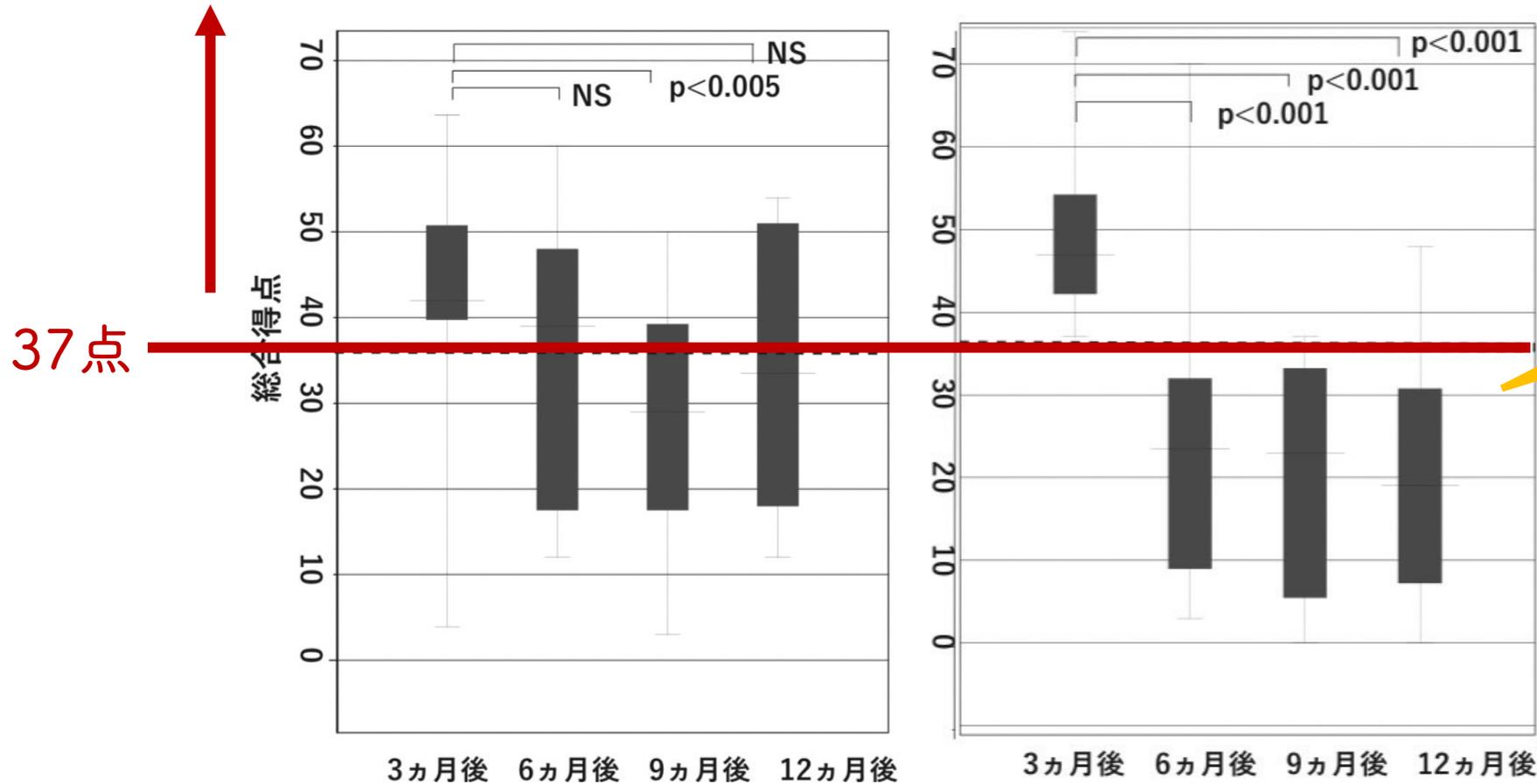
スクリーニング

思春期のこころの学校健診

スコア高
= リスク高

早期医療介入なし

早期医療介入あり



学校健診外来を受診した群ではスコアが低下

早期介入による心身症予防が有効

思春期のこころの学校健診

[ポイント]

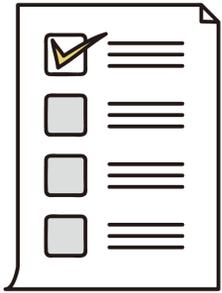
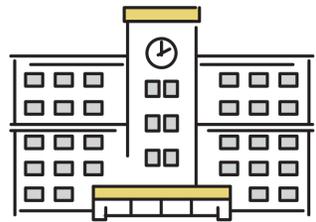
- ・ 不登校の初期に頭痛や腹痛などの身体症状
- ・ 遅い就寝時間・長時間のゲームがスコアの高さと関連

[課題・展望]

- ・ 高リスク群の大半が病院未受診
- ・ 「自分の気持ちは医師にわかってもらえない」
- ・ 普及のためICTの活用

注目した点・考察

[健診の流れ (2021年度～)]



高リスクの生徒

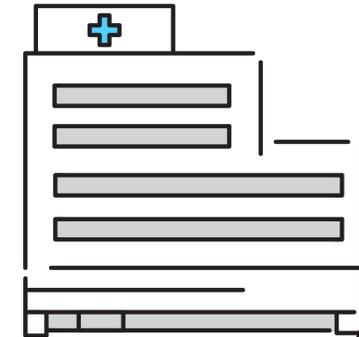


受診

改善が見られない生徒



紹介



QTA30 (質問票)

生活習慣のアンケート

近隣の小児科

南和歌山医療センター
学校健診外来

注目した点・考察

- ・ 一度小児科を受診→児童精神科医の負担を軽減できそう
- ・ 不登校の初期に頭痛や腹痛などの身体症状
- ・ 身体症状に注目した学校健診での早期発見・早期介入は有効

目次

1. 概要

2. 活動内容

①思春期健診

②同志社メンタルヘルス予防教育プログラム

③埼玉県教育委員会

④なごや子ども応援委員会

⑤塚田先生インタビュー

3. まとめ

『こころあっぷタイム』

[対象] 小学生・中学生

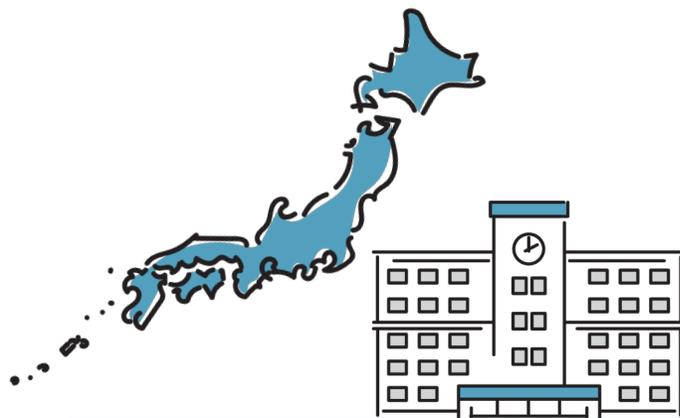
[目的]

- ・心の危機を自力で乗り越えられると知る
- ・周りの心の問題で困っている人への対応を身につける
- ・精神的な症状や病気への偏見を無くす

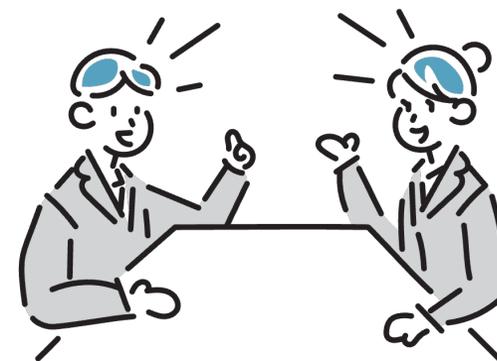


『こころあっぷタイム』

担任の教員が教材・実施マニュアルに沿って
学級全体に授業



全国85校で導入



指導者研修会・交流会が開催

[教材]

漫画の登場人物の心の問題について解決方法を学ぶ

わーっ!!

あつ 赤丸くん 上見て!!

た だ

宿題忘れ ちやつたのか? サトシ!

えっと...

3ページの答えは 何になる?

じゃあ キミ!

いつちドキドキして 答えられなく なっちゃうっ!

...あれ 何かしら...

フオッフオッフオッフ 地球の子どもたちよ こんにちは

わたしは シービーティスターから来た 発明博士の白じいじゃ

人を助ける道具を 発明してある

突然じゃが 三人とも 何か困っている ことはないかね? 何だこいつ?!

わわたし人前で 発表するの苦手...

最近やる気が 出ないんだ!

ずっと気が 落ち込んでる

...さういえば 俺つかもケンカ ばつとイライラ してて...

これからみんなが 困ったときに使っ てあげよう

色々な方法を 教えてあげよう

まっせきもわら びみょうかあう

みんなはどんなきもちになったことがある?

青助くん 赤丸くん キミちゃん

←白じい

[授業内容]

	授業タイトル	構成	概要
1	こまったきもちをつかまえよう	心理教育	参加への動機づけ・感情について学ぶ
2	楽しいことをさがそう	行動活性化	楽しい活動や落ち込んだときにもできる活動を見つける
3	あたたかい言葉をかけよう	社会的スキル訓練	授業・実践・振り返りを通して他者への関わり方を学び練習する
4	きちんと伝えよう	社会的スキル訓練	アサーティブスキルを通して他者への関わり方を学び練習する
5	きもちとからだはどんな関係？	漸進的筋弛緩法	心理的ストレスによって生じる身体症状に気づき、その対処法を考える
6	すてきなところを探そう	ストレングス	個人の違いを認識し、自他の長所を認める
7	考えをつかまえよう	認知再構成法	状況に対する感情の関係を理解し、自分の認知に気づく
8	いろいろな考えをしてみよう	認知再構成法	感情の問題につながる不適切な考え方を理解し、対処する
9	苦手なことは何だろう？	エクスポージャー	それぞれの個人的な困難を理解し、暴露法のメカニズムを学ぶ
10	苦手なことにちょうせんしよう	エクスポージャー	苦手なことの段階を考え、小さな困難から対応する方法を話し合う
11	問題をかいつしょう	問題解決療法	問題への対処の仕方をたくさん考え、さまざまな基準に沿ってその解決法を評価する
12	学んだことをまとめよう	まとめ	これまで学んだことを復習し、日常にどう応用するかを話し合う

- 心理教育：症状や治療に関する正しい知識を提供し、自己管理能力を高める教育的アプローチ
- 行動活性化：楽しみや達成感を得られる活動を計画的に増やしていく技法
- 社会的スキル訓練：対人関係やコミュニケーションスキルを改善するための練習プログラム
- 漸進的筋弛緩法：全身の筋肉を順番に緊張させてから弛緩させ、リラックスを得る方法
- スtrenグス：個人が持つ長所や強みに着目し、それを活かしていくアプローチ
- 認知再構成法：不適切な考え方のパターンを認識し、より適応的な考え方に修正する技法
- エクスポージャー：不安や恐怖の対象に段階的に向き合い、克服していく技法
- 問題解決療法：問題を具体的に定義し、解決策を見つけ出すための体系的なアプローチ

『こころあっぷタイム』

[効果]

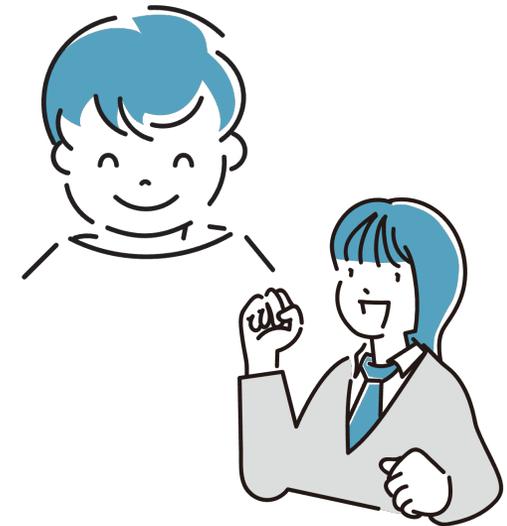
(小学校)

- ・ 行動を起こすときの自信を高め、全体的なメンタルヘルス改善
- ・ 自閉症特性のある子どもたちの社会的スキルと精神的健康の改善

(中学校)

- ・ 学級全体での不安症状改善
- ・ 特に抑うつ感や不安感が高い子どもに効果が大い

注目した点・考察



明確な
授業プログラム・指導案

学校教員が
授業

子どもの
メンタルヘルス改善

目次

1. 概要

2. 活動内容

①思春期健診

②同志社メンタルヘルス予防教育プログラム

③埼玉県教育委員会

④なごや子ども応援委員会

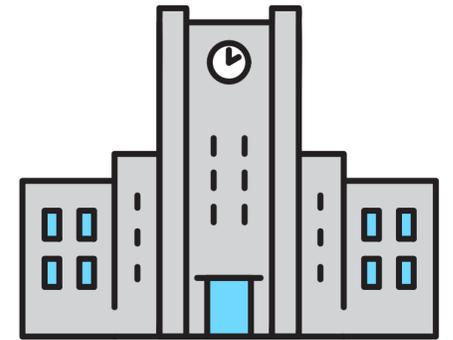
⑤塚田先生インタビュー

3. まとめ

2-③埼玉県教育委員会

令和2年11月

「学校におけるメンタルヘルスリテラシーの向上に向けた教育の充実に関する連携協定」を東京大学大学院（佐々木司教授）と締結



2-③埼玉県教育委員会

[取り組み内容]

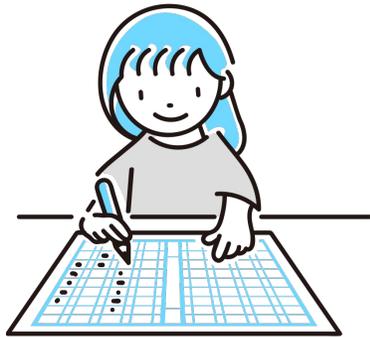
メンタルヘルス研究推進校の指定

(令和3~5年度：中学校8校・高校5校 / 令和6年度：中学校は継続、小学校で新たに実施)

小学校5・6年生から

教員に

保護者に



学校での授業

スクリーニング

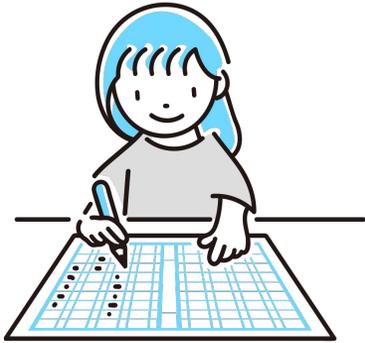
2-③埼玉県教育委員会

精神不調・精神疾患の早期発見・早期対応に向けた
埼玉教育委員会の取り組みについて紹介

小学校5・6年生から

教員に

保護者に



学校での授業



スクリーニング



佐々木司教授

@日本不安症学会
日本認知療法・
認知行動療法学会

小学校5・6年生からの精神疾患教育

[目的]

早期から知識を備えてもらう

- ・精神疾患は10歳ごろから発症
- ・発症年齢の中央値 = 14 歳

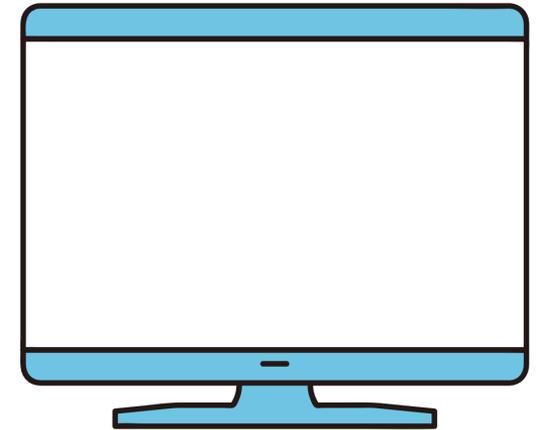
[実施方法]

- ・50分授業1回または2回
- ・担任と養護教諭のペアで教える



[授業内容]

- ・ 精神疾患の基礎知識（好発年齢、症状）
- ・ 「心の不調・ 病気は誰にでも起こる」
「一人で抱え込まずに相談することが大事」



[授業前後のアンケート結果]

精神疾患の知識がついた
何かあったら相談が必要なんだ



知識問題の正答率↑
相談の必要性の認識↑

いざとなったら
相談できないかも…



「実際に相談できる」と
答える人は増加しない



いざとなったら
相談できないかも…



周囲の大人からの
声かけが必要



教員に

保護者に



「実際に相談できる」と
答える人は増加しない

生徒本人
+ 教員・保護者に精神疾患教育

教員と保護者を対象とした精神疾患教育

[目的]

子供たちの不調に早く気づき、
適切な対応をとれるように知識を深め意識を高める



[実施方法]

○教員

- ・各教職員向け研修動画（管理職・養護教諭・教諭など）を配信
- ・校内研修等で活用

○保護者

「保護者向けプログラム」（動画）を
入学予定者説明会や入学式で視聴

精神疾患の頻度はどれくらい？



日本人で一生のうちに
何らかの精神疾患にかかる人は、
5?10?20?40?人
に1人の割合
(認知症は含まない)

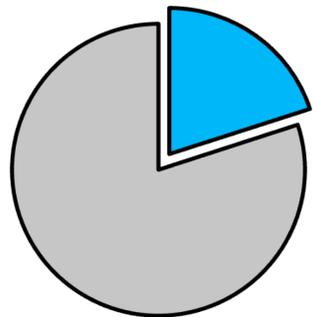
(Kessler 2007)

教諭等向け動画より抜粋 講師：佐々木 司 氏



2-③埼玉県教育委員会

[動画の内容]



精神疾患は5人に1人



10代で発症が増加

学校での授業 – 教員・保護者向け



大人からの
声掛けが重要



自殺リスクの
発見と対応



精神疾患の
基礎知識



教員 – 保護者の連携

動画の視聴後

「子どもがうつ状態のときに誰かに相談する、受診をする」
「子どもが精神疾患だと診断されたときに受け入れられる」



「心の病気/病気への対処 について児童生徒に教えられる自信がある」
「自殺予防などに関する正しい知識を理解した」



と答えた人の割合が増加

全生徒を対象とした精神不調のスクリーニング

[目的] 不調を抱える子どもの早期発見

[対象] 中学1年生621人、高校1年生668人

(1次スクリーニング)

うつ・不安に関する8問 / 希死念慮に関する1問 へ回答

▼ 「有所見」であった生徒

(2次面接)

クラス担任の教員が面接 → 自殺リスクを評価

全生徒を対象とした精神不調のスクリーニング

[結果]

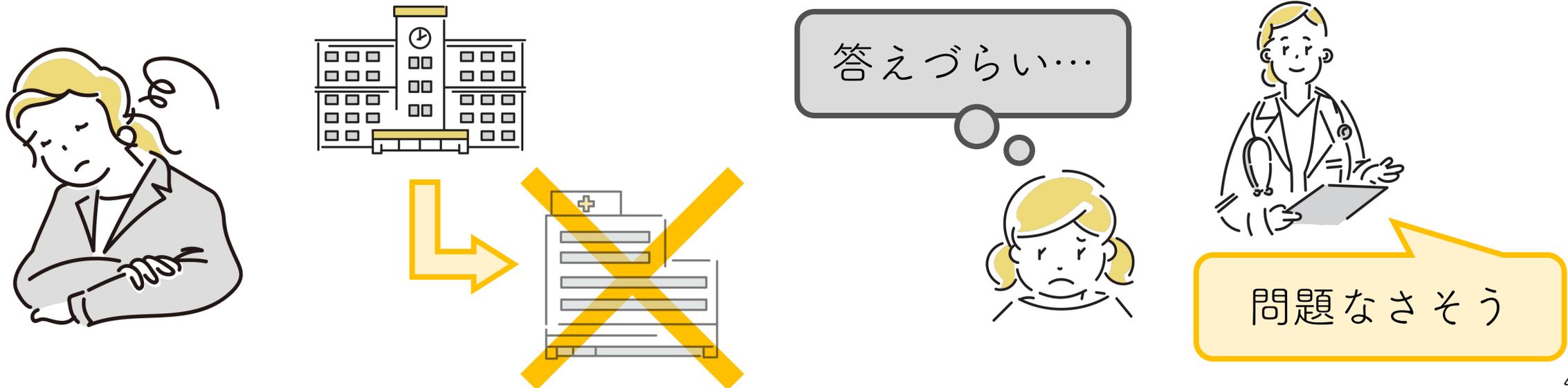
2次面接を受けたうち、自殺リスクの高い生徒が20人

自殺リスクの高かった生徒は
ほとんどが高リスクと認識されていなかった



[課題]

- ・ 二次面接の実施と結果を保護者に伝えることが教員の負担
- ・ 受診先を見つけることが難しい
- ・ 子どもが診察で答えない→「問題なし」



注目した点・考察

- ・ 小学校5・6年生から精神疾患を扱う
- ・ 身近な先生の授業 → 相談しやすくなる
- ・ 教員・保護者にも基礎知識を教える必要
- ・ スクリーニングで初めて自殺リスクが見つかる場合も

児童精神科医の不足

→ 一般の精神科医が10代の診察もできるように



佐々木司教授

目次

1. 概要

2. 活動内容

①思春期健診

②同志社メンタルヘルス予防教育プログラム

③埼玉県教育委員会

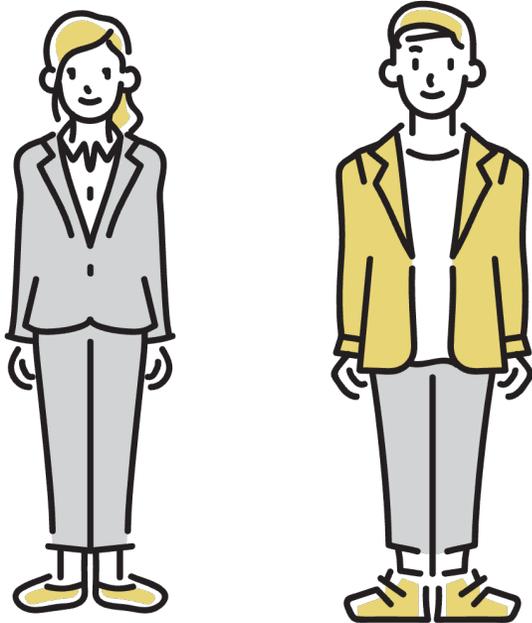
④なごや子ども応援委員会

⑤塚田先生インタビュー

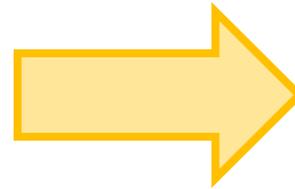
3. まとめ

2-④なごや子ども応援委員会

なごや子ども応援委員会



常勤のスクールカウンセラー・
スクールソーシャルワーカーなど



配置



2-④なごや子ども応援委員会

[活動内容]

- ・ 日常的な学校生活の見守り活動
- ・ こころの授業
- ・ 全員面談
- ・ スクールカウンセラー便り
- ・ 相談室開放（昼休み）
- ・ 保護者向け講演
- ・ 教員研修（現職教育）
- ・ 各種アンケートの分析（WEBQU・心のSOS等）
- ・ 校内会議などへの参加・助言
- ・ 個別の相談対応
- ・ 関係機関との連携（医療機関・児童相談所・区役所等）

2-④ なごや子ども応援委員会

[活動内容]

- ・ 日常的な学校生活・見守り活動
- ・ ころの授業 **学校での授業**
- ・ 全員面談 **スクリーニング**
- ・ スクールス
- ・ 相談室開放（昼休み）
- ・ 保護者向け講演
- ・ 教員研修（現職教育）
- ・ 各種アンケートの分析（WEBQU・心のSOS等）
- ・ 校内会議などへの参加・助言
- ・ 個別の相談対応
- ・ 関係機関との連携（医療機関・児童相談所・区役所等）

2-④なごや子ども応援委員会

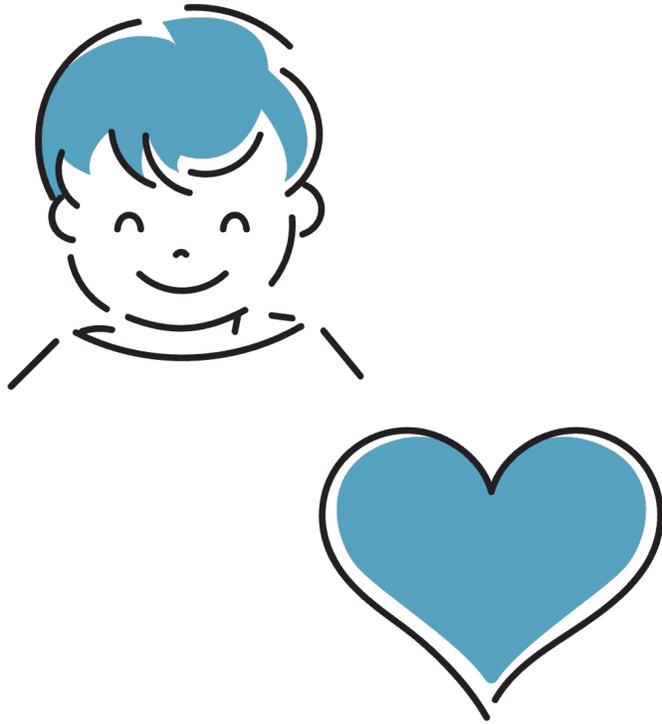
Zoomインタビュー（9/13）



こころの授業と全員面談の
実施状況、内容など

教育委員会事務局新しい学校づくり推進部子ども応援課
長谷部さん、船越さん

こころの授業



[目的]

子どもたちに知識をつけてもらう



- ・自分の心の状態に気づく
- ・友だちのSOSに気づく

こころの授業

[実施方法]

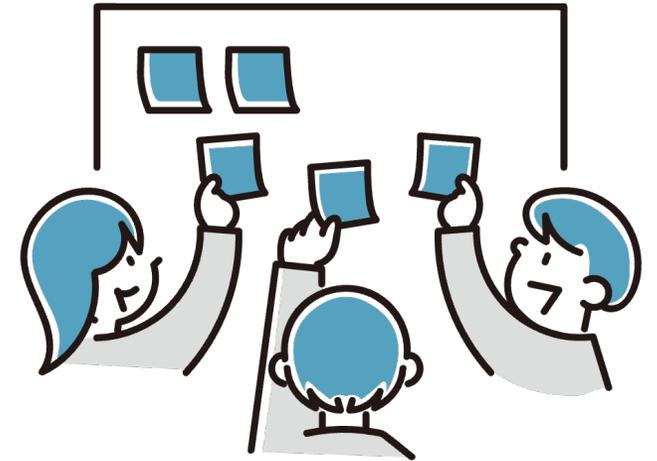
1学期につき1コマ(45分)の学校が多い



カウンセラーや担任が行う



授業とワーク・実践を行う



こころの授業

[内容]

ストレスマネジメント/アンガーマネジメント

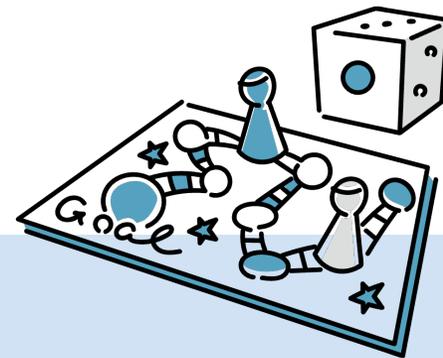
ストレッサー・ストレス反応・コーピング

周りからのサポートを受ける方法、リラックスするための呼吸法

物事の捉え方の転換



人との接し方



中学校すごろく

小学6年生で中学校の生活の様子の導入

全員面談

[実施方法]

日時：主に放課後や昼休み

（他に授業中、健康診断に組み込むことも）

場所：こころの教室（各学校に設置）

形式：1対1が基本（複数同時のこともあり）、1人1分程度

スクールカウンセラーが行う

対象：小4と中1の全員、他の学年は必要に応じて

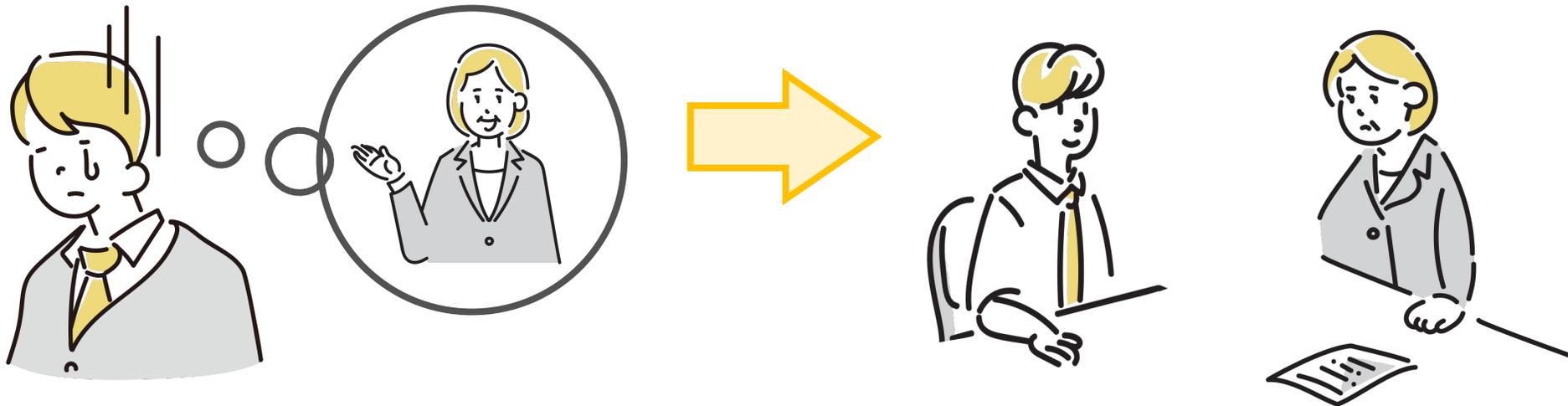
全員面談

[目的]

生徒と顔見知りになる

→生徒が相談に来るハードルを下げる

その場で相談/発達障害に気づくことも



全員面談

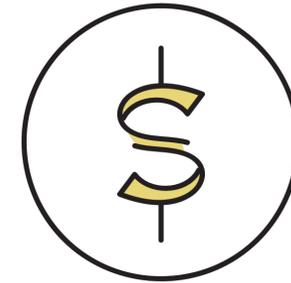
[工夫]

事前にアンケートで話題を確保

○個別対応の場合

ボードゲームなどを通して様子見

- ・ 計算能力
- ・ 特徴的な行動がないか
- ・ 人生ゲームで選ぶピンの色など



2-④なごや子ども応援委員会

その他

スクールカウンセラーが積極的に活動

- ・ クラスの掲示物（生徒の作品）
 - ・ 休み時間の様子
 - ・ あいさつ運動などの活動
 - ・ スクールカウンセラー制度や通級の周知
 - ・ 保護者講演会
- 生徒の人間関係や様子を把握



2-④なごや子ども応援委員会

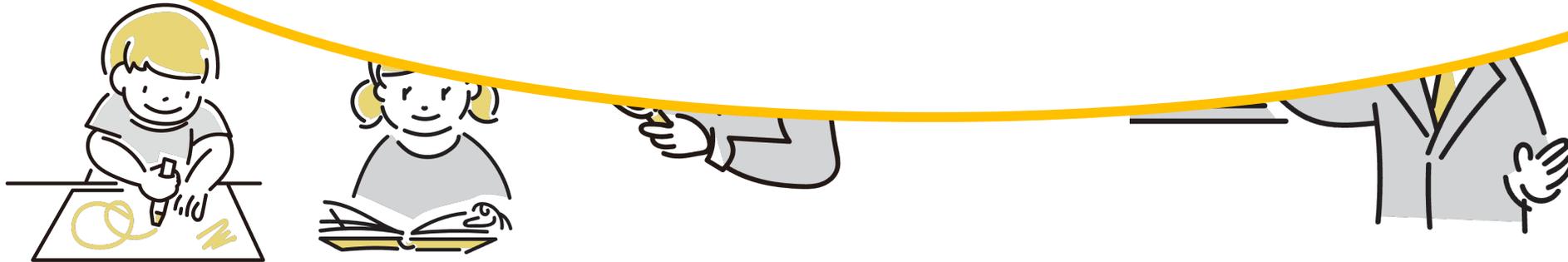
その他

スクールカウンセラーが積極的に活動

- ・ クラスの掲示物（生徒の作品）
- ・ 休み時間の様子
- ・ あいさつ運動
- ・ スケジュール
- ・ 保護者の様子

生徒の人間関係や様子を把握

活動には委員会と学校の
信頼関係が重要



2-④なごや子ども応援委員会

注目した点・考察

- ・ 早期からの教育
- ・ カウンセラーとの接触頻度を上げる



- ・ 「気持ちをわかってもらえない」
「相談しづらい」という印象を変えるために有効そう！
- ・ 心理職に特化した組織体制により積極的な活動が可能に

目次

1. 概要

2. 活動内容

①思春期健診

②同志社メンタルヘルス予防教育プログラム

③埼玉県教育委員会

④なごや子ども応援委員会

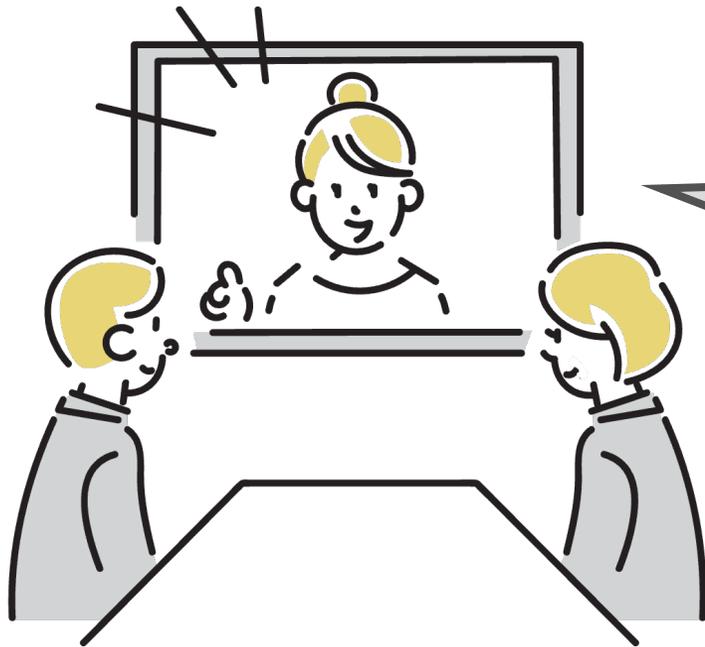
⑤塚田先生インタビュー

3. まとめ

2-⑤塚田先生インタビュー

塚田先生 Zoomインタビュー (4/23)

産業医科大学 助教・精神科医 塚田凧歩先生



子どもの精神科受診
学校と医療の連携

2-⑤塚田先生インタビュー

注目した点・考察

- 受診のきっかけは不登校が多い
- 発達障害 → 周りに適応できない → 不登校やうつに
- SOSを出す言葉を持っていない
→ 自傷や不登校、身体症状などのサインを出す
- 学校でのサポートだけでは教員の負担が大きい
- 学校でうまくいかないとき 医療側が歩み寄り連携することが大事

目次

1. 概要

2. 活動内容

①思春期健診

②同志社メンタルヘルス予防教育プログラム

③埼玉県教育委員会

④なごや子ども応援委員会

⑤塚田先生インタビュー

3. まとめ

3.まとめ - これまでの要点

思春期健診

- 一度小児科を受診 → 児童精神科医の負担軽減
- 身体症状に注目した学校健診は有効

同志社大学

- 明確なマニュアルで教員が授業 → メンタルヘルス改善

埼玉県
教育委員会

- 早期の精神疾患教育、教員による授業 → ハードル下げる
- 教員と保護者にも教育コンテンツ必要
- 一般の精神科医が診察できるといい

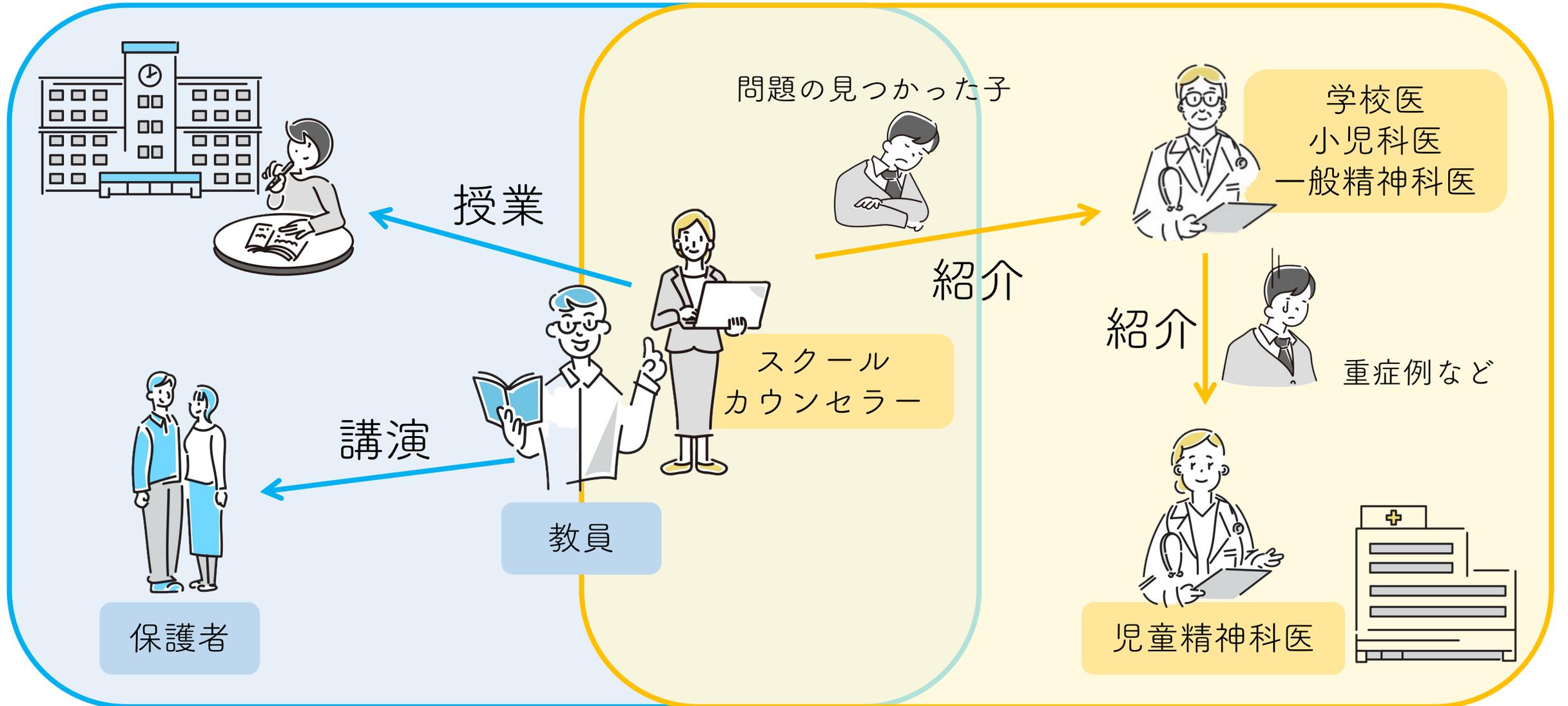
なごや子ども
応援委員会

- 早期からの教育とカウンセラーの積極的な活動
→ 「わかってもらえない」「相談しづらい」を解消
- 心理職に特化した組織体制

3.まとめ - 提案

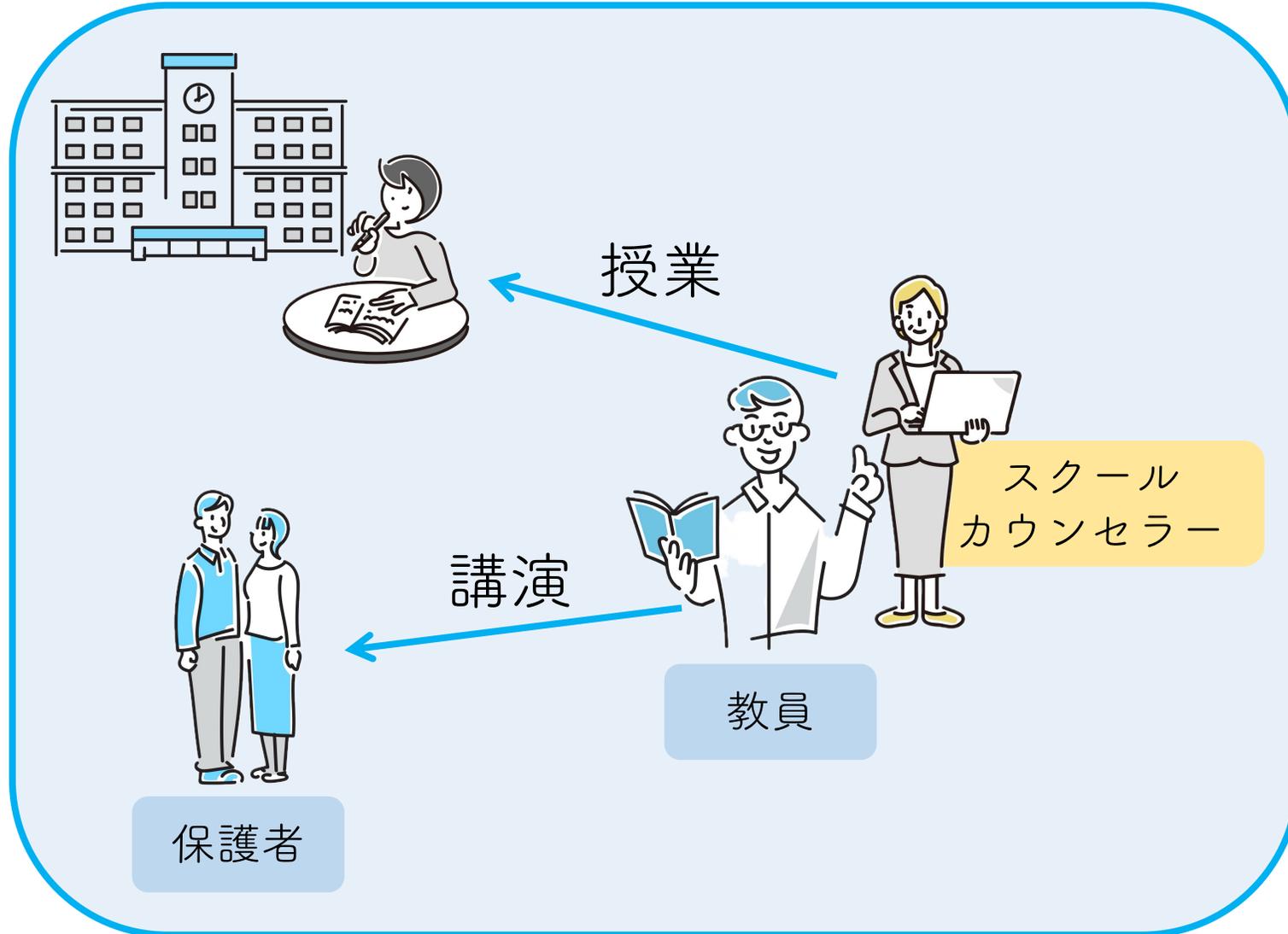
学校での授業

スクリーニング



3.まとめ - 提案

学校での授業



3.まとめ - 提案

学校での授業

いつでも
話しに来てね

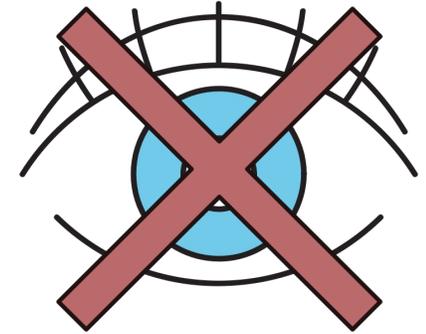


スクール
カウンセラー

もしみんなが
この状況なら～



教員



偏見をなくす
相談しやすく

優しそう



変なことじゃ
ないんだな

3.まとめ - 提案

[授業内容]



基礎知識



ストレス
対処

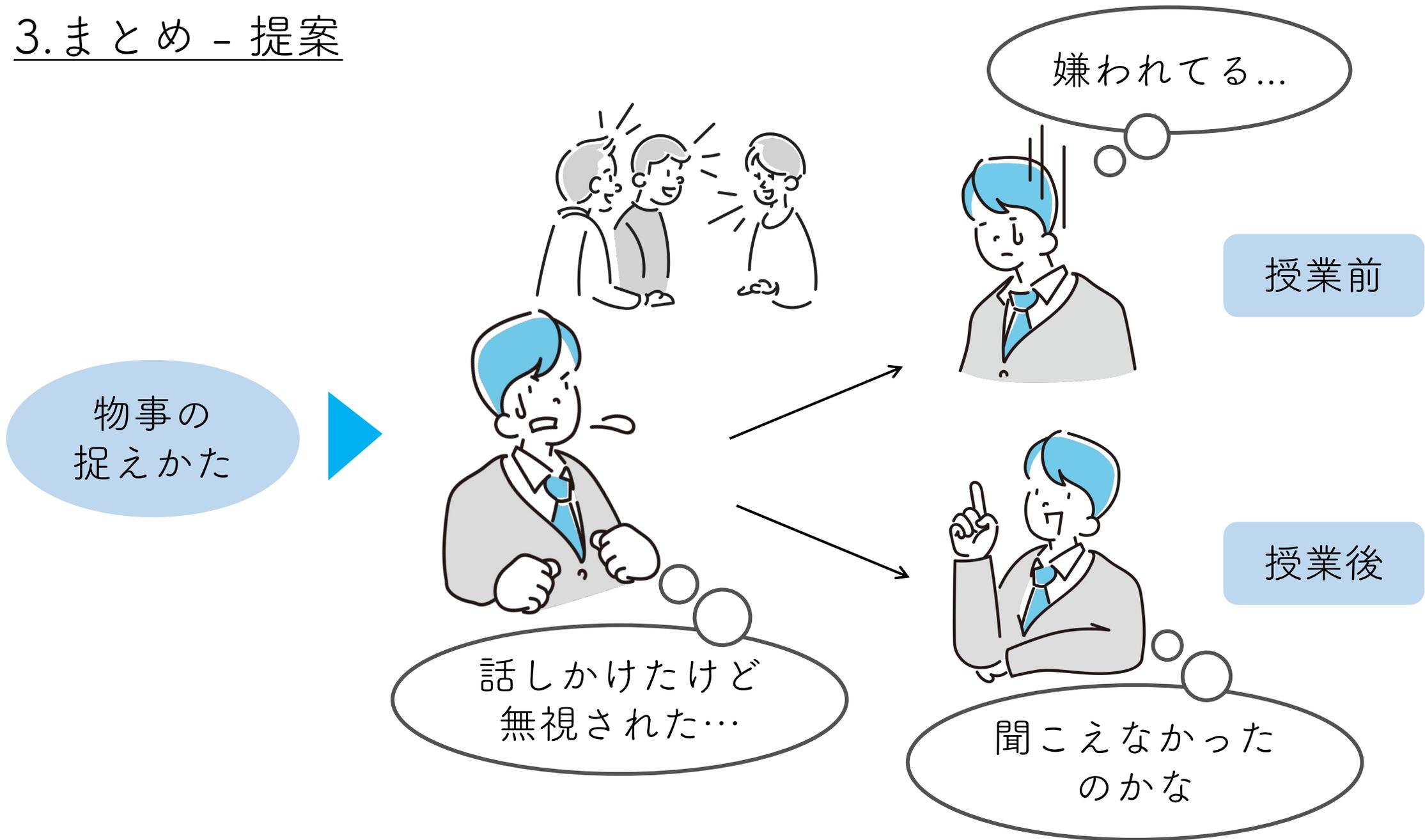


周囲への
サポート



物事の
捉えかた

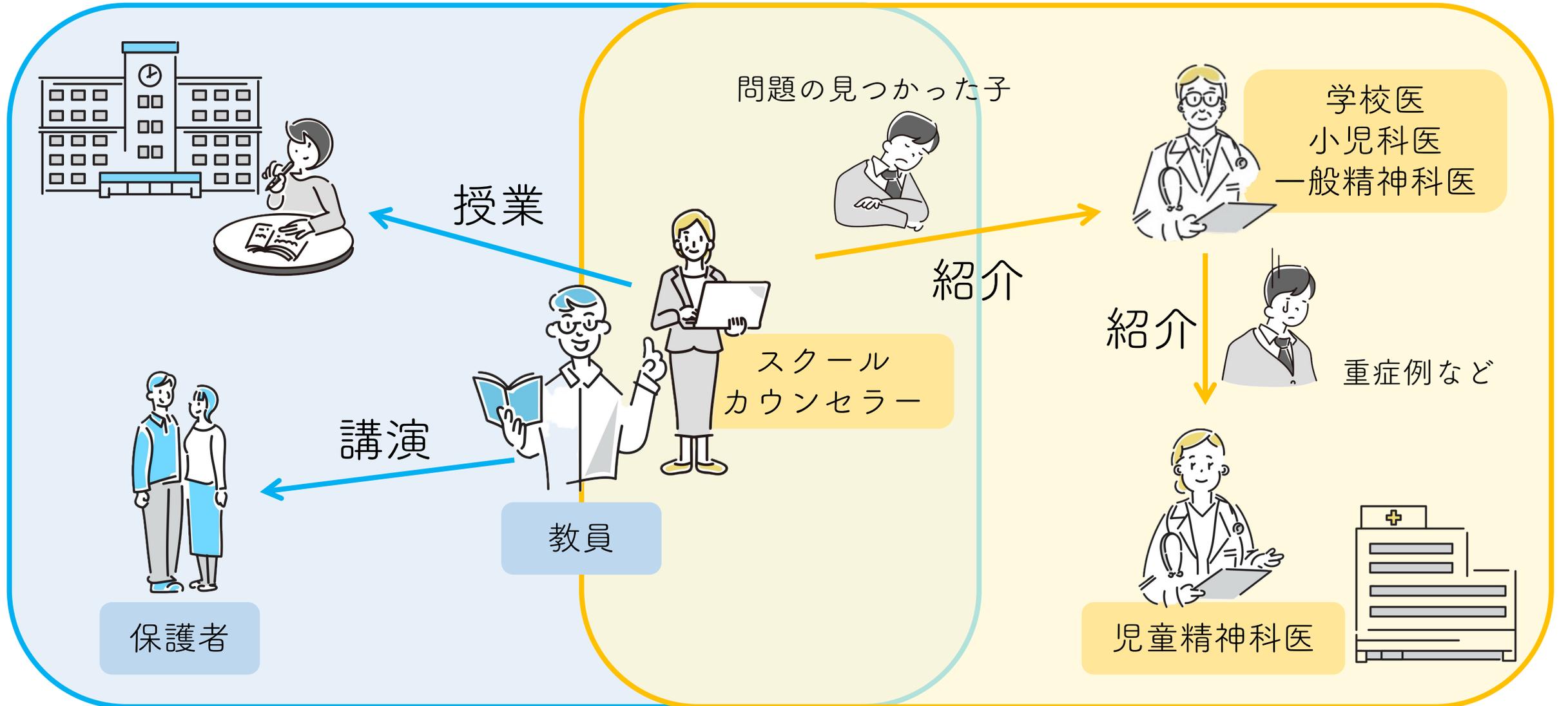
3.まとめ - 提案



3.まとめ - 提案

学校での授業

スクリーニング



3.まとめ - 提案

- ・ リスクの発見
- ・ 相談のハードルを下げる



3.まとめ - 提案

質問票

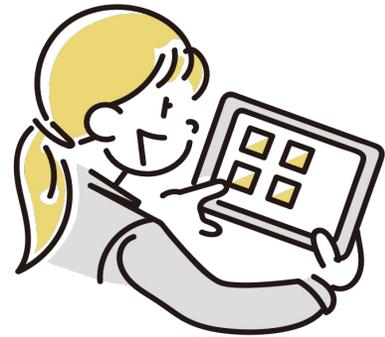


心身症状
生活習慣
家族機能
学習理解度
など

学習理解度△



全然ついて
いけなくて…



端末での回答

就寝2:00
ゲーム6h



友達関係が…



悩みが心身症状として
現れている…?

個別の声掛け

3.まとめ - 提案

[現状]

スクリーニング



問題の見つかった生徒



児童精神科医の不足



児童精神科医

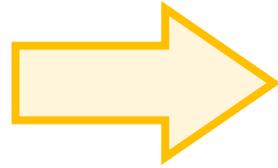
3.まとめ - 提案

[改善案]

スクリーニング



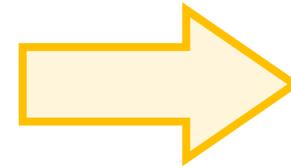
問題の見つかった生徒



子どもの
心身症状・発達障害
もカバー



学校医
小児科医
一般精神科医



児童精神科医

3.まとめ - 提案

学校での授業

心理職特化の組織体制

地域ごとに心理職配置
各役職の緊密な連携
研修・ケース検討



講演

指導マニュアル

保護者

教員

問題の見つかった子



日頃から連携

学校-医療のチームでスムーズに
定期的な情報共有

カウンセリング



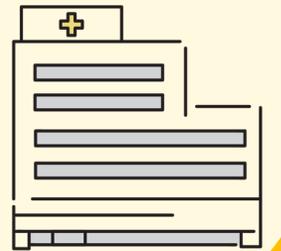
学校医
小児科医
一般精神科医

重症例など

教員と医師の研修

教員が生徒の問題への対応を学ぶ

児童精神科医



子どもの
心身症状・発達障害への対応

3.まとめ - 感想



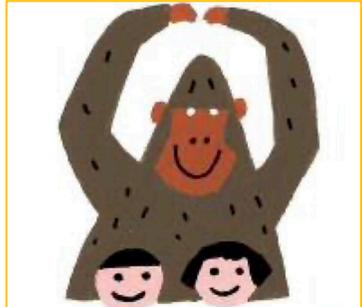
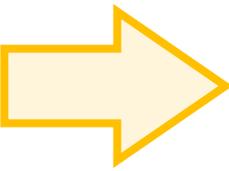
人数不足



非常勤
人数不足
質の問題



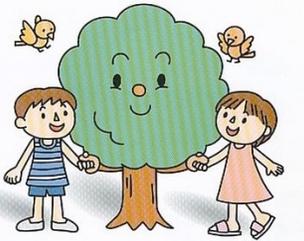
過重負担



なごや子ども応援委員会

このころの健康アドバイザー事業

子どもたちのすやかな心を育て輝く未来へ
—相談活動の充実をめざして—



熊本県教育委員会
財団法人熊本県学校保健会

結局「人を増やそう！」になる？

「人手不足だから現状無理」ではない！

3.まとめ - 感想



自殺



不登校



自傷行為

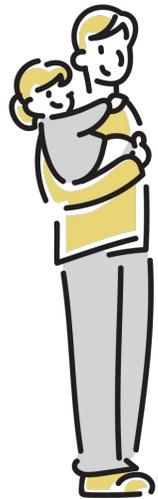
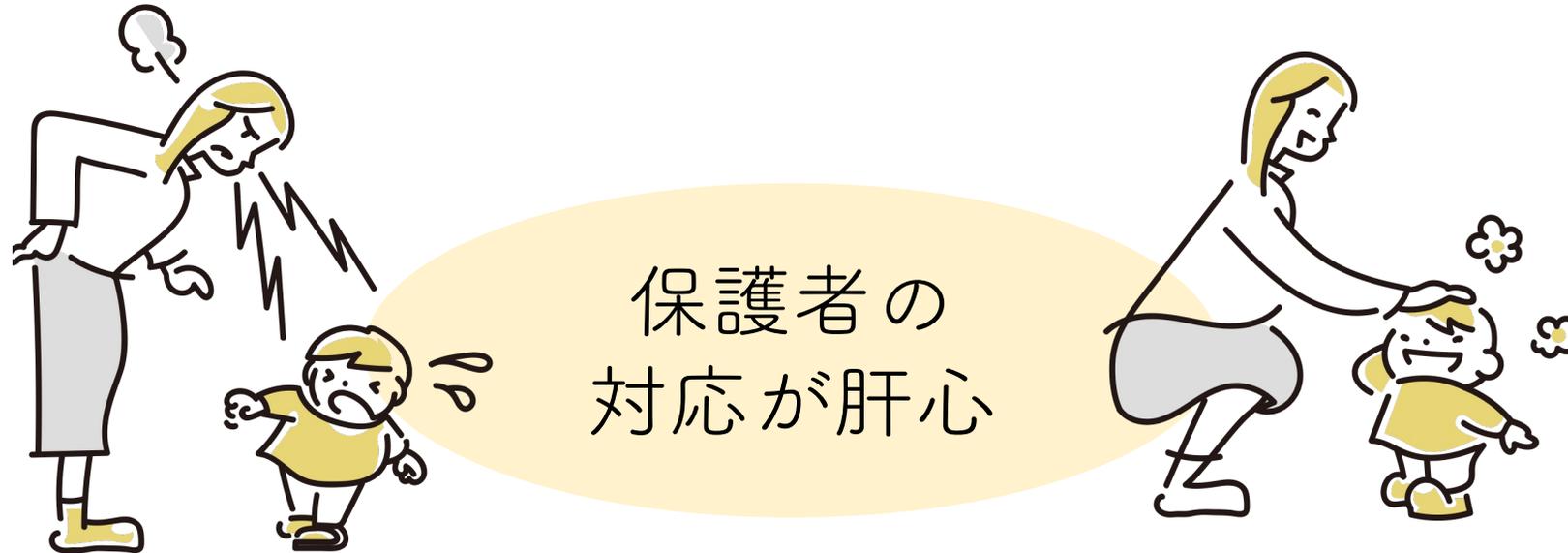


摂食障害

うつ病

子どもの心を守ることを
喫緊の課題として取り組む

3.まとめ - 今後の展望



より複雑な問題に対するサポートを
社会福祉制度の面から調べる



参考文献

- 土生川千珠：不登校予防のためのこころの学校健診 思春期のこころの予防的支援システム2023, 子どもの心とからだ 日本小児心身医学会雑誌, Vol.31, No.4, pp. 541-544, 2023/02
<https://mol.medicalonline.jp/library/journal/abstract?GoodsID=ee8jjspp/2023/003104/013&name=0541-0544j&UserID=133.5.12.1>
- Chizu Habukawa: Early intervention for psychosomatic symptoms of adolescents in school checkup 2022, Pediatrics international, Vol.64, No.1, 2022/01
<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/ped.15117>
- 土生川千珠：心身症予防のための思春期の学校健診2022, 子どもの心とからだ 日本小児心身医学会雑誌, Vol.30, No.4, pp. 491-493, 2022/02
<https://mol.medicalonline.jp/library/journal/abstract?GoodsID=ee8jjspp/2022/003004/017&name=0491-0493j&UserID=133.5.12.1>
- 土生川千珠：不登校予防のための思春期の学校健診2021, 日本小児科学会雑誌, Vol.124, No.2, p.471, 2022/02.
https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=202002253571779740

参考文献

- Chizu Habukawa : Utility of the QTA30 in a school medical checkup for adolescent students 2020, Pediatrics international, Vol.62, No.11, pp.1221-1311, 2020/11.
<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.1111/ped.14268>
- Chizu Habukawa : Late bedtime reflects QTA30 anxiety symptoms in adolescents in a school checkup 2020, Pediatrics International, Vol.63, No.9, pp.1003-1147, 2021/09
<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/ped.14554>
- 土生川千珠：思春期の学校健診への取り組み2019, 思春期学, Vol.37, pp.250-256, 2019
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/report/KAKENHI-PROJECT-18K09962/18K099622019hokoku/>
- 永光信一郎：アウトカム評価とバイオマーカー指標に基づく子どもの心の診療システムの構築, 2014-07-25
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25460643/>

参考文献

- 同志社大学メンタルヘルス予防教育プログラム
<http://mentalhealthprogram.jp/>
<http://mentalhealthprogram.jp/program/>
- 埼玉県教育委員会 学校におけるメンタルヘルスリテラシーの向上に向けた教育の充実
<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2209/jisatuyobounituite.html>
- 埼玉県議会 令和4年2月定例会 代表質問 質疑質問・答弁全文（岡重夫議員）
<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2209/jisatuyobounituite.html>
- 佐々木司：子供の精神保健に関する教員・保護者の知識・理解向上に向けた教育プログラム開発, 2023-01-30
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/report/KAKENHI-PROJECT-18H01009/18H01009seika/>
- 佐々木司：学校の定期健康診断を活用した高校生の精神不調の早期発見・早期対応の試み, 2021-04-28
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H00857/>

参考文献

- 名古屋市 なごや子ども応援委員会
<https://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000074050.html>
- なごや子ども応援委員会リーフレット
<https://www.city.nagoya.jp/kyoiku/cmsfiles/contents/0000074/74050/leaflet2024.4.1.pdf>
- 名古屋市教育委員会 子ども応援室 川岸 晃子：なごや子ども応援委員会について
<https://www.city.nagoya.jp/kyoiku/cmsfiles/contents/0000168/168462/nagoyakodomooeniinkaishiryō.pdf>

子ども心理支援班
2024年 後期総会

Fin.